

善光寺の阿弥陀如来は百済から渡ってきた

11月に上題にて文化講座をおこないました



一光三尊阿弥陀如来

百済から渡来し秘仏で拝観できず

一つの光背に観音菩薩

阿弥陀如来、勢至菩薩が

ならんでいるそうです

長野のような遠隔地に百済の渡来仏があるのは何故でしょうか

これは5世紀後半百済より馬が日本へ伝来したと密接に関係しています

5世紀後半の朝鮮半島では高句麗、百済、新羅「が入乱れ戦乱の時代でした

百済は高句麗に攻められ都を落とされ、その都度多くの百済の人達が日本へ渡ってきました この時馬を連れてきたのです それまで日本には馬がいなかったのです

百済も高句麗も遊牧騎馬民族の出であり、この馬は丈の低いモンゴルの馬です



前方後円墳から舟の埴輪が出ています

丸太をくりぬき舟底にし横に板を貼り付けたものです

この船で玄界灘を島伝（壱岐、対馬、沖ノ島、大島）

に渡ってきたのです、馬も運んできたのです



前方後円墳からは沢山の馬の埴輪、馬具が

出土しています

馬は大和朝廷、豪族の権力の象徴、戦闘の道具です

大和朝廷はこの人たちを受入れのその人達と共に東国の「蝦夷」を攻め

長野の地を百済の人達に与えたのです

彼らはここで馬を育て馬の文化を根付かせました

この馬は再度朝鮮に輸出されました 年間百頭近く輸出していました

首長は「科野氏」(しなのし)として大和朝廷の有力豪族となると共に百済の高官になりました

長野の南にある「飯田」には長野に移る前の元善光寺と呼ばれる寺院があります

又20基の前方後円墳があり馬を埋葬した事例もあります

この一帯が大和朝廷の東国経営の拠点だったと考えられます

そして馬を飼育する大生産地だったのです

元善光寺は百済の豪族達の居館、軍事拠点だったかもしれません

「倭の五王」の一人「倭王武」雄略天皇が四七八年

中国南朝に送った上表文「東は毛人を征すること五五国」

と同じ時期に馬の文化が東進したのです

その拠点が飯田でそこに百済の子孫が住み着いたのです

時代を経てこれらのことは歴史の闇に消え

唯飯田の人「本田善光が難波の堀で阿弥陀如来にめぐり合い連れ帰った」との

伝承だけが残ったのです